

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校教育目標 (教育方針)	◎地域の未来を創出する人材の育成 1. 他者とのかかわりを通して自己を見つめ、豊かな人間性を備えた生徒を育てる。 2. 確かな教養に裏付けられた専門的知識・技術を有し、地域の未来を見据えて主体的に学び続ける生徒を育てる。		
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> 将来のリーダーに必要な、公共の精神と対話力・コミュニケーション力を身に付け、仲間と協力して課題解決することができる生徒（うごかす力） 基礎学力を着実に身に付け、自分自身の将来を見据えながら自ら学び続ける意欲を身に付けた生徒（つなぐ力） グローバルな視点で地域社会の将来を展望し、商業、生活産業の各分野で、スペシャリストとして活躍する力を身に付けた生徒（つくりだす力） 	
	生徒をどう育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりの個性や適性に合った学びを実現するためのカリキュラム編成ときめ細やかな指導の実施 ICTを活用し、自ら学び続ける意欲を持たせるための「主体的・対話的で深い学び」や「探究的な学び」の推進 SDGsを意識し、変化する産業構造を見据えながら、地域の大学や産業界との連携、協働による実践的な専門教育を推進 	
	どんな生徒を待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> 部活動や生徒会活動を含めた学校でのあらゆる活動を通して、自己を見つめ、仲間と協働し、人間性を高めようとする生徒 向上心を持ち、自ら学び続けようとする主体性のある生徒 商業・生活産業に関わる学習内容に興味があり、地域社会で活躍する「夢」に向かって努力する意欲のある生徒 	
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> 人間関係が希薄であり、コミュニケーションの苦手な生徒の増加 相手の気持ちが理解できない生徒 学習習慣が定着しておらず、高等学校での学びに対応できない生徒 頑張ろうとしても、できない生徒 困難を避ける傾向 明確な目標を描くことができない生徒 すぐにあきらめる 類型の廃止ともない、専門性から幅広い学習への転換 学習成果を高めるためのカリキュラムの研究 学校教育と働き方改革の両立 		
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標	
	生徒指導	うごかす力（心豊かな人間性）の育成 人権教育の推進を図り、他者との協同・協調活動を通じて、自他を大切に。あらゆる活動を通じて、対話力・コミュニケーション力を高め、リーダーシップを醸成する。	
	進路指導	つなぐ力（自ら学ぶ力）の育成 基礎学力の定着を図り、将来を展望し、主体的・対話的で深い学びを通して、自ら学び続ける意欲を身に付けた生徒を育成する。	
	学習指導	つくりだす力（専門的知識・技術）の育成 商業、生活産業のスペシャリストとして活躍する力を身に付けさせ、グローバルな視点で地域社会の将来を展望し、力を尽くすことができる生徒を育成する。	
	学校経営	風通しのよい学校 生徒の学習環境の整備を進めるとともに、教職員の働き方改革を推進する。	

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興基本計画 での位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
生徒指導	校則の見直しを通して人権尊重の気風がみなぎる学校づくりを推進する。	7	施策Ⅰ-7	・生徒・保護者・地域に受け入れられる校則	校則の見直しについてホームページで公開しているが、今年度は大きな見直しはなかった。身だしなみチェックにおけるLGBTQ対応を進めた。家庭・中学校とも連携をとり、教員間で情報共有をして、生徒の支援を実施した。通級指導等も積極的に活用した。いじめアンケート等、生徒の発するSOSを見逃さないようにアンテナを高くすることと、組織対応を心掛けた。	生徒情報交換会議など、現状把握の機会を多く設け、組織対応ができた。制服のタイプCを次年度より導入。(ブレザーの合わせを逆にし、スラックスを絞ったものとし、性別問わず選択可)身だしなみチェックにおけるLGBTQ対応が身だしなみの乱れに繋がる可能性もある。制服への理解を深めたい。	A
	人権尊重の価値観や態度を育て、行動へと向かわせるための教育を推進する。	3	施策Ⅰ-3	・心のケアや差別・偏見を意識し、教育相談的な対応			
	生徒会やMSリーダーズの活動、各教科の学習や部活動を通じて、言語能力の確実な育成を図り、地域や社会の発展を担う人材育成に取組む。	4	施策Ⅰ-4	・生徒の意識に関するアンケート結果の肯定90%以上、及び生徒の変化			
	生徒一人ひとりに寄り添い、安心・安全な学級、温かい空気に満たされた学級をつくることで、生徒の心の成長や発達を促す。	19	施策Ⅲ-19	・年2回の教育相談週間の実施。SC、S相との連携強化。			
進路指導	ガイダンス機能を充実させ、あらゆる場面でのキャリア教育を推進し、各学科での学びを生かした進路選択ができるように計画的・組織的な指導をする。	8	施策Ⅱ-8	・生徒の進路希望100%実現。	1月6日現在、3年生希望進路未定者が2名いるが、年度末までには決定すると思われる。生徒の進路希望の実現は達成できるであろう。進路講話、進路ガイダンス、進路に関するLHRを、全体で13回実施し、進路を考えるきっかけや進路決定への取組を行うことができた。キャリアパスポートとして、振り返りシートや外部業者のデジタルポートフォリオを用い専門学科の体験的な学びを中心に、自己の歩みを見直し、自己の成長を実感させることができた。大学進学に際し、専門学科等入試をよく活用した。面接指導、小論文指導など、きめ細やかな指導ができた。	家庭の事情などからアルバイトを強く希望する生徒が増えた。三者懇談等を通じ、家庭にも正規雇用・非正規雇用について理解をいただかないといけない。大学進学では、国公立大学に5名が挑戦し、4名が合格した。指定校推薦が多い現状は変わらないが、より高みを目指す生徒が多かった。専門学科の学びを生かす進路を目指す者は多いが生徒の進路希望は多様化している。それに対応していかなければならない。面接指導、小論文指導、インターンシップなど、進路指導に全職員が関わることができた。	B
	全職員による小論文指導、面接指導また2年次インターンシップ、卒業生と語る会等の実施を通して、主体的で前向きに進路選択ができるようにする。	23	施策Ⅳ-23	・進路ガイダンス、進路講話、進路に関するLHRの実回数年間10回以上			
	地域や企業との連携を実践学習や課題解決学習の場として活用し、実践力・コミュニケーション力・創造力を高め、生涯にわたり探求を深める未来の創り手を輩出する。	13	施策Ⅱ-13	・振り返りシートを活用し、生徒の意識を確認する。			
	情報収集に分析に努め、生徒が資格取得や、キャリア教育で得た力を進路表現に反映できるようサポートする。	1	施策Ⅰ-1				
学習指導	基礎基本を重視し、学習目標の明確化と生徒一人ひとりに応じた個別最適化を目指した学習指導に努める。	8	施策Ⅱ-8	・定期考査における成績不振生徒(素点)5%以内	定期考査における成績不振生徒(素点)10.1% 授業評価アンケート「授業に満足している」96.6% 家庭学習毎日1時間以上36.3% 授業力向上に向けての研究授業、研修の実施。研究授業3回+全教員年2回以上実施(公開授業週間年2回実施) 岐阜県ふるさと教育週間学校公開(公開授業)実施 東東の魅力発信方法の研究、実践。中学校説明会17校、高校見学4校、キャリア・チャレンジDay4日実施(OC490人、体験入学270人、産業フェア)	授業に満足している生徒は目標を上回ったが、成績不振者は目標達成できなかった。生徒の学習時間を増やす工夫が必要と感じる。他教科の授業を参観するなど教員一人一人が授業力向上に取り組んだ。その成果が生徒の学習意欲に結び付くよう、より課題意識を持ち継続したい。ホームページの充実をはじめ、東東を知ってもらう工夫を継続する。	A
	創意ある教育課程の編成と特色ある学校づくりの推進。	20	施策Ⅳ-20	・学習成果発表会における外部評価			
	急速に変化する世界の動向を見据えながら、日本の伝統的な産業文化の継承・創造に関する教育内容を充実させ、地域と連携し活動を進める。	14	施策Ⅱ-14	・授業評価アンケート(生徒評価)で「授業に満足している」90%以上			
	ICT機器を活用し、生徒が主体的・対話的で深い学びができる環境の実現。	9	施策Ⅱ-9	・家庭学習毎日1時間以上40%			
学校経営	職員が丸となり、風通しのよい職場とする。ハラスメントとメンタル不調等への迅速な対応を心掛ける。	28	施策Ⅳ-28	・「働きやすい職場づくり」アンケートの活用。ハラスメント0	年3回の調査を実施、直接学校長と話す機会を持ち、想いを共有するようにした。ハラスメント事案は起きていない。職員会議の回数を減らし、複数の会議をまとめて実施した。積極的にオンラインを活用するようにしている。複数分担制・チーム化により円滑な業務遂行をはかった。月45時間は業務内容により達成できない場合もあったが、年360時間はほぼ達成できた。	おおむね職員会議は1時間以内に終わることができた。日々のコミュニケーションを深め、情報共有を図りたい。複数分担制・チーム化をより一層すすめて、個々の職員に過度な負担がかからないようにする。各種委員会及び委員の見直しを行う。新JIS規格の机・椅子の継続導入を進めた。令和6年は60セット入る予定。	B
	複数分担制・チーム化により、円滑な業務遂行を図るとともに、学校行事等の業務の継続的な見直しを実施する。	20	施策Ⅳ-20	・教職員の働き方改革ができたという実感の確認(時間外労働、月45時間/年360時間以内)			
	教材を共有化することで教材研究等にかかる時間を削減し、教職員の働き方改革を推進する。	27	施策Ⅳ-27				
	新JIS規格の机・椅子、照明のLED化などをはじめとする必要な施設・設備の計画的な整備を促す。	23	施策Ⅳ-23	・PTA、学校運営協議会委員の意見や要望			

来年度に向けての改善方策等 実施日：令和7年1月17日 学校関係者評価 実施日：令和7年1月23日

職員一人一人が、「働き甲斐改革」を進め「働き方改革」につなげる。生徒の学びの事実を分析・検討・協議し、有効な指導を考える。学習目標の明確化と生徒一人一人に応じた指導の実践。学習習慣の確立、適切な課題提示。学校外の資源を積極的に活用し、開かれた学校づくりをすすめる。すべての関係者がスクールミッション・スクールポリシーを共有し、同じ方向を向いて進める。

・東東の賑々と流れる伝統の魅力を学習成果発表会におけるそれぞれの発表から肌で感じることができた。今後もオンリーワンの学びを広く発信し続けていきたい。
・「スクール・ミッション」がこの度制定された。この具現化を一層高めていけると期待する。特に「産業教育」を担う高校として全ての科が生きていくために不可欠な学びをされていると実感している。
・御寄町の魅力を発信し、情報を発信してもらえことに感謝申し上げる。郷土愛は若いころから育み、生涯に渡り続いていくものと考えます。
・生徒の学習活動の場が近隣地域のみならず、県外にまで広がっていることに驚くとともに、将来の進路へのきっかけや、様々な多様化社会を学んだことと思う。
・入学して3年、専門的な学習の知識を深め、自分の技術の習得に努力してきたことが伝わった。
・地域の方との交流、難しい事にもあきらめず挑戦する気持ち、やってみよう、面白そう、楽しい!と思えることを、これからも大切に取り組んでいくことを期待する。